

施 策：	08	くらしの安全対策の推進	財務コード	01020107-01-00
基本事業：	02	交通安全対策の推進	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	交通ルールやマナーをまもっている市民の割合		担当課	危機管理課
			担当係	生活安全・防犯担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民及び通学・通勤者等（歩行者、ドライバー等）			<ul style="list-style-type: none"> ・四季（春,夏,秋,年末）の交通安全運動を警察、交通安全協会等と共同で実施。市内商業施設でチラシ・物品を配る等、交通安全の啓発を行う。秋は市内5駅でも啓発を行う。 ・登校時に交差点等に立ち、児童生徒に交通指導をする。 ・筑紫野市交通安全指導員（非常勤特別職）に依頼し、月2回（7時～8時）で実施。 ・交通安全推進指導員数：21名 						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
交通安全や交通ルールに対する意識が高まり、交通事故が減少する。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	01年度 実績	02年度 実績	03年度 当初	04年度 要求	05年度 計画	06年度 計画	目標
交通安全指導員1人あたりの平均活動回数		回	24	20	24	24			24
児童生徒の通学時の交通事故件数（筑紫野市内）		件	6	7	0	0			0
5. コスト									
事業費		計	千円	1,361	1,388	1,602	1,599		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	1,361	1,388	1,602	1,599				
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費		千円	2,420	2,409	2,376				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,781	3,797	3,978	1,599			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	<状況>市内の交通事故発生件数は減少しており、傷者数（重傷）も減少している。児童生徒の通学時の交通事故件数は増加している。 <原因>本事業の四季の交通安全運動や登校時の交差点での児童生徒への交通指導等、市民の交通安全に対する意識向上の取り組みの効果が現れているのではないかと考えられる。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として筑紫交通安全協会筑紫野支部補助事業があり、本事業と関連のある活動も見受けられるため、事業の明確化が必要である。 交通事故件数は減少しているが、今後は高齢者関連の交通事故が増えていくと思われるため、更なる啓発の推進が必要である。 交通安全指導員の高齢化や担い手不足に課題があるため、人材確保に向けての検討が必要である。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
筑紫交通安全協会と連携し老人クラブ等の高齢者団体に対して交通安全講習会の実施を検討する。 交通安全指導員の人材確保については、警察署や各行政区、団体等と協力し募集に努める。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
昭和59年3月筑紫野市交通安全指導員設置規則を制定し事業を開始した。 平成27年6月改正道路交通法が施行されたことにより自転車の規制と罰則が大幅に強化され、さらなる自転車運転者のマナー向上が求められている。									